

教職員・弘済会会員の皆様

弘済会そくほう



平成30年7月号
公益財団法人
日本教育公務員弘済会
岐阜支部

宿泊補助券の申請はご自身の手で・・・

宿泊補助券の申請は、**トラブルを防止**するためにも必ず**ご自身の手で**

申請方法は、下記の3つから選択



①弘済会岐阜支部HP・弘済会ガイドブック(学校保存用)から様式を入手してFAX送信

②岐阜支部HPから様式をダウンロードしてメールに添付



③スマートフォンから岐阜支部HPの専用フォームに直接入力して送信

宿泊補助券は、年度内に6泊分まで申請できます(同居の配偶者・親子の分も可)。未使用分は岐阜支部に返却すれば、リセットされます。年度内に6泊分使用しない場合は破棄されても構いません。



教弘保険 7つのメリット

○ 年齢による保険料の増額なし

生命保険の多くは年齢に応じて保険料が高くなっていきますが、教弘保険は年齢・性別に関わりなく保険料は一律で、**年齢が高くなったからといって保険料が上がることはありません。**

○ 転職・退職・病気になられても保険料そのまま

加入後に転職・退職、病気になられても保険料は上がりません。教弘保険は、学校や教育委員会等にお勤めの教職員の方しか加入できない生命保険です(県職員の方などは、学校や教育委員会等に勤務されている時には教弘保険に加入できますが、**首長部局に異動されると加入することはできません。**)

○ リビングニーズ特約を無料で付加

余命6か月以内と診断された場合に、生存中に保険金を受け取ることができる「リビングニーズ特約」を無料で付けることができます。

○ 各種福祉事業を用意

教弘保険に加入されている方は、各種福祉事業(宿泊補助・結婚祝金・出産祝金等)を受けることができます。ご自身による申請が必要です(様式は、弘済会岐阜支部HPから入手できます)。

○ ライフサポート倶楽部会員としての特典

弘済会の会員は、「ライフサポート倶楽部の会員」になります。全国各地のホテルの宿泊や様々な施設等を利用する際に割引などの特典があります。

詳しくは学校担当にお尋ねください。

○ 保険金支払・給付は速く確実

ジブラルタ生命保険(株)では、全ての学校に担当を配置し、迅速に対応します。



○ 保険料が低廉な分、付属保険によってニーズに応じたプランの利用も可

共済事業(提携保険事業) 提携保険会社(ジブラルタ生命保険(株)) 各営業所電話番号

岐阜1・2 (058-267-6006) 大垣 (0584-83-4500) 関 (0575-22-3793)

美濃加茂 (0574-25-3658) 多治見 (0572-21-3732) 中津川 (0573-65-3517) 高山 (0577-32-1623)

(公財) 日教弘岐阜支部の関連会社(株)岐阜教弘で人事異動がありましたのでお知らせします。



代表取締役 退任のご挨拶
太田 裕夫

この6月の株主総会において、(株)岐阜教弘の代表取締役を退任することになりました。5年間の代表取締役在任中は、多くの方々に大変お世話になりました。何とか任を果せたのも、皆様方のご支援のお陰です。心から感謝申し上げます。

(株)岐阜教弘は、今後とも、ジブラルタ生命保険(株)と連携し、教弘保険の普及・拡大を通して、弘済会の教育振興事業や福祉事業の一層の充実に寄与する所存です。宜しく願い申し上げます。



代表取締役 就任のご挨拶
大塚 弘士

この6月の株主総会において、新代表取締役就任の承認をいただきました。ジブラルタ生命保険株式会社と提携して行っている共済事業を通して、教職員の皆様の福祉事業、教育振興事業の充実への応援ができればと願っております。

皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

年金・介護等に関する関心が高くなっています

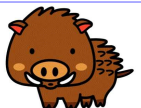
例年、学校・各種部会等から



夏休み等を利用した各種講座の開催希望を多くいただきます。

ジブラルタ生命保険(株)(弘済会共済事業の提携保険会社)では、学校・団体等のご希望に応じて**講師を無料で派遣**します。申し込み順で受付、定数に限りがあります。

詳しくは、学校担当LC(ライフプラン・コンサルタント)にお尋ねください。



弘済会の猪の独り言(19)

前号の話の続きである。

五月三日の午前九時半過ぎ、学級委員と班長が岐阜公園の噴水前に集まった。その中に女子生徒と対立する様相を見せていた学級委員のA男もいた。今の時代なら生徒を連れての下見など、安全への十分な配慮と事前の届けなどがあっても簡単には認められないだろうが、当時はそこまでの厳しさはなかった。私は、前もって考えていたコース案を示し、まず金華山山頂を目指して出発した。途中から、A男と仲のよい男子数名が後に続いているのに気付いた。山頂に到着すると後を付いてきた男子数名とA男たちは、隠し持ってきたバレーボールを取り出し、私が止めるのも聞かず、勝手にバレーを始めた。そして、危惧したとおり、そのボールは狭い山頂から樹木の中に落ちていった。急斜面を生徒に取りに行かせる訳にもいかず、私が斜面を降りてボールを拾い上げ、そのボールを預かった。山頂からは日野方面に狭い山道を一列になつて降り、日野にあるグラウンドに向かった。連休明けに屋外活動(遠足)が行われることから、活動場所を強引に決めたものの、それ以外の準備などできないまま当日を迎えた。

屋外活動の当日、大きなトラブルもなく日野のグラウンドに到着した。そして、いざ活動開始となった時、班長のB子が言った。

「先生、何やるの?」と。「男子と女子の対立を収めること」「無事に現地に行き着くこと」しか眼中になかった私には、「その活動を通して何を学ばせるか」の「目的」どころか、「どう活動させるか」という「手段」すら抜け落ちていたのだ。咄嗟に、持参させていた赤白帽を使って「軍艦オニ」で生徒たちを走り回らせた。

その後は、道具がなくてもできる「肉弾」。気になる男子生徒たちと身体をぶつけ合いながら、何とか遊びに引き込もうと悪戦苦闘した。不完全燃焼のまま帰校した私の学級は、それ以後、様々な場面で担任との対立を引き起こすことになる。しかし、その要因に担任自身の「学級指導に対する見通しのなさ」や「一人一人を本気で大切にしようとする思いやりの欠如」があることに、その時は全く気付いていなかった。